

滝頭小学校 福祉教育

1 福祉教育の目標

- ・ 年少者も高齢者も、障害のある人もない人も、国籍や言葉の異なる人も、すべての人々がこの社会の中で、誇りをもって、心豊かで幸せな生活を送ることができるようにするための心情を育てる。
- ・ 子どもたちが、障害者や高齢者などの出会いやふれあい体験などを通じて、生命の尊さや生き方について学び、それぞれの立場や心情を思いやる態度を養う。

2 福祉教育の体系化

- ・ 福祉教育の内容を三つの目標に分け、低・中・高学年という発達段階に応じて構成する。
- ・ 学習指導要領「道徳」の内容を参考にする。
- ・ 小学校6年間で「幼児」「高齢者」「障害者」の三者との交流を行うようにする。

3 三つの目標から

- ① 心情の育成 ⇨ 福祉の心を育む
- ② 知的理解 ⇨ 福祉についての理解を深める
 - ・ 福祉とは何かを学ぶ。(仕組みや制度)
 - ・ 福祉に関する現状を知る。(おかれている状況や立場、当事者の思いや願い)
 - ・ 福祉に関する取り組みを知る。(施設、機関など 町の中のあるものの役割など)
- ③ 実践する力 ⇨ 福祉に関わる実践力を育む (体験的活動を通して)
- ④

	低学年	中学年	高学年
心情の育成	○身近にいる友だちや幼児、高齢者などに温かい心で接し、助け合う心や感謝する心をもつ。	○地域の高齢者や障害者などに思いやりの心で接し、助け合う心や感謝する心をもつ。	○地域にいる様々な人々とのふれあいを通して、だれに対しても思いやりの心で接し、助け合い協力する心や感謝する心をもつ。
福祉の理解	○身近にいる友だちや幼児、高齢者などとのふれあい活動を通して、自分の成長や高齢者などの生活の様子に気づく。	○地域にいる高齢者や障害者などとのふれあい活動や疑似体験などを通して、高齢者や障害者の身体的特徴や接するときのマナー・技能について理解する。	○地域にいる様々な人々とのふれあい活動・疑似体験や福祉に関する学習を通して、少子高齢化社会やノーマライゼーションの考え方について理解する。
実践的態度の育成	○身近にいる友だちや幼児、高齢者などのかかわりに関心を持ち、問題意識をもって、主体的にふれあい活動を行う。	○地域の高齢者や障害者などが幸せになる上での課題を見つけ、自分たちができる活動を主体的に行う。	○地域の高齢者や障害者などが幸せになる上での課題を見つけ、自分たちができる活動を見通しをもって主体的に行う。

※ノーマライゼーションの考え方

「障害のある人もない人も、高齢者も子どもも、男も女も、地域で、社会で、ともに助け合って、ともに生きていく」ということ